

## きもの二十四節気 芒種・夏至～小暑・大暑



富岡市長 岩井賢太郎さんと、市長室にて

富岡製糸場を起点とした日本のシルクロード 中谷比佐子

日本では富岡製糸場を起点とした技術のシルクロードとビジネスとしての、東京を起点にしたシルクロードがあります。と私はそう思っているのです。

ビジネスとしては、東京―八王子―横浜です。技術のシルクロードは群馬・長野・埼玉・東京・横浜となるのでしょうか。

養蚕地域を後ろに控え、一大集散地東京に集められた種(蚕の卵)や生糸、は横浜で製品になって、イギリス・フランスなどヨーロッパに輸出されていて、多くの生糸商人や糸の投資家などがこの地で大活躍し、不動の富を我が物にしたものです。

また明治後半から昭和初期には輸出先の手アメリカも加わり、特に絹のストッキングは、全世界の女性たちの憧れの的となりました。他には絹のハンカチやスカーフ、絹の下着も大人気で、今でもスカーフづくりの技術は世界に誇れます。

昭和30年代はイタリアの超有名メーカーの縮緬スカーフが大流行、デ

裏面へつづく

## 匠たちの手仕事 VOL.3

### <桑苗木農家>大竹裁桑園 大竹文明

チャコちゃん先生が嬉しそうに手に取る採れたての新玉ねぎは、北関東一の生産量を誇る玉ねぎ農家 大竹文明さんが丹精込めて育てたもの。群馬県の特別認証を受けた安心安全な玉ねぎの栽培技術は高く、大産地北海道から視察が来るほどだそう。この日もまさに収穫の真最中でしたが、上州富岡駅から電話をすると畑からご自宅兼事務所へ戻られ、「今年も甘いのが出来たよー！大きいでしょ」とご満悦の笑顔で出迎えてくれました。

「家内はあいにく、注文の饅頭届けに行っちゃって留守で悪いね」と、自ら冷茶をいれてくれる大竹さん。

“注文の饅頭”とは、群馬名物「おやき」。車で10分ほどの富岡製糸工場 駐車場前で富岡おやきの店「いと」を、奥さま 綾子さんと、次女 明菜さんが切り盛りしています。

### 養蚕農家の4代目

事務所に飾られているのは、数え切れないほどの賞状。その中には、チャコちゃん先生もいただいた大日本蚕糸会からの「蚕糸功労賞」も並んでいます。実は大竹さんが玉ねぎ農家を始めたのはまだ20年前のこと。(それで日本一はすごい!) それまでは養蚕業一色の地帯でした。



日焼けした笑顔がカッコイイ、大竹文明さん。

「いま見えるあの辺りから、ずっと向こうの木がある辺りまで、とにかく桑の木だらけだったんだから」と、懐かしそうに話されます。大竹さんが四代続いた家業 養蚕をやめたのは、つい20年くらい前のこと。製糸所を引き受けていた時期もあつたほど勢いある地域でしたが、繭の貿易自由化などにより、事情が変わってしまいました。

それでも、ここまで関わってきた養蚕業のために、赤字覚悟で桑の苗木だけは栽培し続けてきたそうです。

「この数年の健康ブームで桑の効用が見直されて、農家だけでなく研究所関係、製薬会社や飲料関係からも引き合いが増えて。でも気がつけば、大規模な桑の木の農家は他に残ってなくてね。ますます忙しくなっちゃったよ」

どなたか雇われているのか尋ねると、首を横に振られました。「どうもダメなんだよね、何でも自分でやらないと気がすまないたちで。あ、でも娘婿には手伝ってもらっているけどね」やるからには、何でも徹底して、思った通りにやらすには無理なようです。

そんな大竹さん「実は12年くらい前に一度死にかけたんだよね」とケロリと話します。ちょうど養蚕業をやめたころ、無理が重なり体調を崩し、病院で悪性リンパ腫と診断され半年ほど入院。その後も薬を飲み続け、顔がむくんだり身体が思うように動かない時期が続きました。そんな時、パティシエを目指していた次女が、「私が戻ってきて跡を継ぐから」と言ってくれたそうです。「闘病中も、ずっと桑の木のことが気になっていたからね。びっくりしただけで励みになって、本当にありがたかったよ」と、うれしそうに話されます。

さらに誇りに思っていることがあるそうです。それはここ数年、毎年3月7日に宮内庁へ苗木をお納めしていること。美智子さまの御親蚕のための桑園に毎年数百本、トラックを運転してお届けに上がります。

「責任重大だから緊張するけどね。ありがたいことで、今年もきちんと納められて、本当にほっとしたよ」と、植樹をお手伝いしている写真を見せてくれました。

これからおやき屋「いと」で、自家製の桑の葉茶の健康効果も伝えながら、まだまだ日本の養蚕業のために頑張ってくださいね。



接ぎ木したら、斜めに覆かせて植えます。



甘い大玉の玉ねぎ

ザインはイタリアでしたが制作は横浜の町工場だったのです。

事程左様に日本での絹製品の製作技術は他の国を圧倒していました。ちよつと目を凝らせば、その時の名残の建物や庭園がシルクロードのまちなちには残っていて、当時の絹の偉光を垣間見ることが出来ます。横浜の「三溪園(さんけいえん)」もその名残ですね。

## 富岡製糸場が日本の絹産産を引っ張る

富岡製糸場は明治5年(1872年)に開業しました。

明治5年は日本が近代国家として大きく変貌した年です。この年は陰暦の13ヶ月であったことから、政府は給料の支払いのことも考え、12月にいきなり太陽暦を持ってきて、12月5日を明治6年元旦としてしまったのですから、横暴とも思える変化に人々は呆気にとられたことでしょう。

絹の糸作りもそうです。江戸時代は桑養蚕・製糸・機織りは一貫して農家の仕事でした。

その一環の元締めが養蚕農家と呼ばれ豪農でもありました。

それが明治5年には富岡の製糸場

その中で片倉は全国に62の製糸工場をもち、世界でナンバーワン企業でした。

しかしいずれ製糸業は廃れると読んでいたトップは「貸さない、売らない、壊さない」をモットーに保存、維持、管理に年間億円近い金を注ぎ込み、この富岡製糸場を守り続けて、平成17富岡市に譲渡しました。

「利を産まない」投資を続けたのは、蚕への恩返し、この場所で働いた人たちへの、感謝、地域の人達への心配り。いまでもトップたちは、この地で亡くなった工女さんたちが眠る龍光寺での供養を怠らないそうです。

片倉家の想いを受け継いだ富岡市長 岩井賢太郎氏も、この地を養蚕で盛り立てようと企画中です。



現在、西置繭所の保存修理の最中、仮設見学施設で囲まれている。富岡製糸場の稲塚広美課長さんに案内されて見学へ。ヘルメットを借りて仮設場内3階まで上がると、ガラス張りの窓から今しか見られない仕観が見られる。



上州鉄道の上州富岡駅前にも繭の保存倉が残っている。

で糸を作るといふことになり、桑づくり、養蚕、機織りは単独仕事となったわけです。

製糸工場に繭を持つてくるには、かなりの量が必要で。それまでは48時間かけて作り上げられた蚕の繭を、座繰りという方法で繭からゆつくり糸を取っていたのですが、近代化された製糸工場ではそんな悠長なことはできません。

養蚕農家は文字通り養蚕だけをやる農家となり、年一回で伸びやかに糸を引いていた時代は過ぎ、年三回は当たり前、四回も繭を作らせる養蚕農家が続出。日本は一気に養蚕王国となったわけです。

因みに昭和10年までの記録では日本の生糸の生産量は全世界の6割を占めていました。昭和の40年までは世界で二位の生糸輸出国でした



2014年に世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産産遺産群」。その後、旧富岡製糸場と、東置繭所と西置繭所が国宝に指定された。

が、今は世界一の絹の消費国になっていて、生産量は中国・インドの生産量の1%以下という体たらくです。

当然生糸生産国としての名前も上がつてきません。1位中国、2位インドそしてブラジル、ベトナム、タイ、未確認ですが、北朝鮮のほうが2位のインドより多いという情報もあります。

## 工女さんたちが支えた日本の絹

富岡製糸場に集まった工女さんたちはエリート子女でもありました。まず各藩士の娘が選ばれて富岡に集まり、そこで最新式の糸取り方法を身に付けて各地に散らばり、その地で製糸の指導に当たることが多かったようです。

富岡のあの広い敷地の中は、彼女たちの学びの場も設けられていて、書道裁縫、料理、算盤、外国語、嗜みなどの作法を身につける時間も十分に設けられていました。だからこそ、指導者としての今日もあつたのです。

富岡製糸場の中には500人に及ぶ工女さんたちが仕事をしています。この当時珍しく能率給が設けら

れていて一時間に糸を取る量で給料が決まり、指導者としての器も判断されていました。

1日に8時間労働で、日曜祭日は休み。寄宿舎での生活では長幼の礼儀作法が重要視され、神仏を敬い、先祖を敬うことと同時に、蚕の命に感謝するという祭祀民族としての心がけを大事にしました。

そのため仕事場の清潔さ、仕事に対する責任感の持ち方、寝起きする寄宿舎の整理整頓を目の当たりに見る外国人が驚き、尊敬の念を持つたことが記録にも残っています。

工女さんたちが、黙々と糸を取り、日本の経済の立役者であったことを、私たちは忘れてはならないでしょう。

## 地域や従業員たちに還元した片倉製糸紡績

官営から三井家、原合資会社へと富岡製糸場の持ち主が変わり、最後に片倉製糸紡績(現片倉工業)が昭和14年から平成17年までの70年間近く、この文化遺産を守り続けました。

昭和14年ころの日本は、世界の中で製糸業のトップを走っていました。

## 富岡製糸場の工女さんの物語が映画になりました。

### 『赤い櫻～富岡製糸場物語～』

かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証となる富岡製糸場が舞台。まずは10月に高崎と富岡市で先行上映となります。

あわせて、富岡製糸場で『赤い櫻展』も開催中です(～10月22日まで)。

詳細は、富岡製糸場へお問い合わせください。TEL 0274-64-0005



# KOSMOS schedule

秋桜舎講座  
スケジュール

## KOSMOS 今後のイベント

7/22 つれづれの会「高橋染め洗い店さんに聞く、アイロンのかけ方」  
10/8～9 古事記の旅 @ 徳島県  
10/28～29 きもの学問所 @ 長野県松本市  
11/8～9 きもの Day 結城紬&那須塩原  
12/2 クリスマスパティー@浅草 ひさご庵